

の施策の実現に向けて、関係各所への働きかけの場や対話の機会がさらに充実してきております。今後、新たな長期総合計画に示す町の将来像を実現するため、私が先頭に立ち、町民皆様の考えや思いを斟酌しながら、これまで進めてきた諸事業を、さらに強力で推進してまいりる所存であります。

次に、昨年8月、長畑地内で発生した建物火災は、住宅4棟が全焼し、住民1名の方がお亡くなりになるという大変痛ましい災害となりました。亡くなられた方に対し、心から哀悼の意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、全国を見ますと、昨年2月に岩手県大船渡市で、本年1月には山梨県上野原市で、大規模かつ長期にわたる山林火災が発生しており、改めて日頃の防火の重要性を認識した年でも

ございました。

私が幼少の頃、地域住民が「火の用心」と言って町内を練り歩き、住民が皆で地域の防火を担うといった光景が見られました。現在は、地域住民の高齢化に伴い、消防署や消防団にその任を委ねざるを得ない状況です。8月の長畑の火災現場においても、消防団の皆さんが日頃の訓練の成果を発揮し、火災現場において迅速かつ的確な消火活動を実施していただいたおかげで、山林への延焼を食い止めることができました。しかし、昨今の人口減少や地域活動に対する考え方の変化などにより、消防団員は全国的に減少の一途を辿っており、奥多摩町も例外ではありません。町の防火・防災に必要な消防団員をどのように確保していくか、非常に大きな課題と認識しております。今後、消防団員の確保に向け、既存の考え方に捉われず、

時代の変化に合わせた消防団組織のあり方や活動内容の見直しについて、検討を進めてまいります。

火災をはじめ、大地震や台風、土砂災害、大雪などの様々な災害に対し、十分に備え、住民皆様の安心・安全を守ることは、町の責務のうちでも最も重要なものの一つであります。昨年度に地域防災計画の改定を、今年度にはハザードマップの更新を実施いたしました。今後も地域の皆様と連携・協力しながら、より一層の防災、減災対策の推進に努めてまいります。

また、今年度は、熊による被害が全国的に話題となりました。町では、以前から猟友会と連携・協力し、東京都の委託事業であるツキノワグマ緊急対策事業を実施してきたほか、「獣害報告LINE（ライン）アプリ」の導入など新たな対策も行っていました。

また、大丹波地区にて溪流釣りをされていた方が子熊に襲われ負傷するという被害が発生するとともに、東北地方を中心に全国で熊による人身被害の報道が相次ぎ、昨年秋季以降、特に紅葉シーズンの町の観光に重大な影響が出ております。

来年度以降、町として、現状の熊対策を継続して実施していくとともに、最前線で熊と対峙する猟友会の方々へのより一層の支援について、また、今回のような風評による観光等への影響を最小限に食い止めるべく、報道機関等への対応のあり方についても、検討してまいりたいと考えております。

さて、今年度は、昭和30年に古里村、氷川町、小河内村の三か町村が合併し、奥多摩町が誕生して70年という記念すべき節目の年でした。町では、納涼花火大会やふれあいまつりなどの各種既存事業を、町制施行

70周年の冠事業として実施したほか、観光大使の任命、JR東日本八王子支社と連携した70周年記念臨時列車ツアー、多摩大学による特別講座など、町民皆様が参加でき、思い出となる様々な記念事業を実施いたしました。各事業には、町内外から例年以上に多くの方々にご参加いただき、記念すべき70周年を町全体で祝うことができたと感じております。

町制施行70周年にあたり、記念事業の実施にご協力いただいた皆様、ご参加いただいた皆様、そして何より、奥多摩町が誕生して以来70年の長きにわたり、町を支えていただいたすべての方へ、この場をお借りして、改めて、心よりの感謝を申し上げますとともに、先輩方が作り上げてきたこの町を、さらに豊かで住みよい町にするべく、町長として、決意を新たにしたいところでございます。